

令和6年度 学校評価総括表

(徳島県立徳島科学技術高等学校 全日制課程)

本年度の具体的目標

テーマ

規範意識や倫理観の高揚に努め、豊かな人間性を育むとともに、SSH での取組を主体的・対話的で深い学びの実現につなげ、夢や目標に向かって粘り強く挑戦するチャレンジ精神と、社会の変化や技術の進展に対応できる力を養う教育を推進する。

- ①文武両道を実践し、夢や目標の実現に向けて、何事にもチャレンジ精神をもって、主体的に取り組むとともに他者と協働する態度を養う。【主体的・協働的に取り組む姿勢の育成】
- ②社会的・職業的自立に必要な知識・技術・技能・態度を身につけ、社会の変化や技術の進展に対応でき、地域社会や産業界に貢献し得る実践的な技術者を育成する。【専門教育の推進】
- ③「徳島県キャリア教育推進指針Ⅲ」に基づき、変化が激しく、予測困難な時代や社会を生き抜く力を身につけるキャリア教育を推進する。【キャリア教育の充実】

年度総合評価(A : 十分達成できた、B : 概ね達成できた、C : 変化の兆しがあった、D : 達成が不十分であった)

具体的目標	①主体的・協働的に取り組む姿勢の育成	②専門教育の推進	③キャリア教育の充実
番号	1～7	8～17	18～22
総合評価	B	A	B

①主体的・協働的に取り組む姿勢の育成

学校自己評価								
年度目標					年度評価(3月1日現在)			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標(目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
1	課題学習の工夫や個別指導を充実させることにより、生徒の個性を伸ばし、主体的に取り組むとともに他者と協働する態度を養う。 (教務課)	基礎・基本の定着を図り、それを活用した実践的な知識や技能を身につけさせる。	教育活動の中で、生徒の実態に応じて、生徒タブレットを活用することで、授業での気づきや発見を大切にして、自らの考えをまとめ、伝えることを通して他者と協働しながら主体的に学習する力を養成する。	① 今年度授業評価における理解度のポイント数を昨年度の0.1ポイントアップを目指す。 ② 今年度授業評価における主体性(授業準備、授業態度、興味関心)のポイント数を昨年度の0.3ポイントアップを目指す。	(評価指標による達成度) ① 今年度の授業評価の理解度は0.21%アップした。 ② 今年度の授業評価の主体性は0.38%アップした。 (活動計画の実施状況) タブレットについては、通信状況を考え、台数を制限する等の工夫した活用となっている。Classiの利用において校内グループやアンケートの活用が定着化している。	(達成度) B (所見) Classiについては生徒による主体的な活用を定着させたい。採点ナビにより業務が効率化され、小テスト等により振り返り学習を充実させることができた。	理解度の0.21%の向上については、電子黒板によりデジタル教科書を活用した授業形態が定着したことや、主体性の0.38%の向上についてもICTの活用により興味や関心をもって授業に参加できていることが要因であると考えられる。生徒がタブレットを活用し、授業に参加することで、さらに理解度や主体性を向上させたい。	研究授業や公開授業において、生徒がタブレットを活用できる授業を実践することで、教員が、効果的なICTの活用方法について、共有し定着させていきたい。今後、生徒タブレットの充実と通信環境の改善が行われ、日頃の授業にも活用が進んでいくと思われる。
2	全教職員による人権教育の体制づくり (人権教育課)	HR活動の計画実施をはじめとして、人権教育活動の改善を行うとともに、県教委指定研究の充実を図る。	HR活動の立案・実施においてはクラス担当全員が関わるとともに複数クラス・またはコース内での連携を図る。指定研究で全クラスの公開授業を実施する。	① 学校評価(生徒)人権教育に積極的に取り組んでいる、「そう思う」が昨年より5ポイントアップ ② 主事研修会で全クラスの公開授業を実施	(評価指標による達成度) ① 生徒の評価は昨年と変化がなかった。 ② 計画通り実施した。 (活動計画の実施状況) ① HR活動の立案・実施においては計画通りに実施した。 ② HR活動だけでなく、専門教科・普通教科の授業をバランスよく実施し、専門教育の特質を生かした人権学習を展開することができた。	(達成度) B (所見) 生徒による学校評価の数値は、変化がなかったものの、3年生の振り返りアンケートにおいては、各種人権に関する行事の中での人権意識の高	生徒の数値に変化はなかったものの、保護者・教職員の数値はともにポイントがアップしている。3年生の記述アンケートからは差別解消に向けた行動への意欲などがみられる。人権学習においては、クラスを中心とした複数教員で立案・実施をする体制が定着しつつある。また、指定	クラス等を中心とした複数体制でのHR活動の立案・実施のさらなる定着を進めたい。そのため、人権HR事前研修会等を活用し、全教員による人権教育の呼びかけを継続して行う。指定研究2年目に向けて、専門教育の学びを生かした全教育活動の中での人権教育の実践の充実を図りたい。専門教科を中心

						<p>まりが得られたことが分かる。 公開授業では、HR活動、教科をバランスよく配置して実施した。</p>	<p>研究を好機として、専門教育の学びを生かした人権教育を実践することができた。</p>	<p>とし、それぞれの教科・科目の特質を踏まえた人権教育のあり方を考える。</p>
3	<p>学校行事等への積極的参加 (特別活動課)</p>	<p>本校の学校行事について詳細を生徒に連絡する。</p>	<p>担任を通じて生徒への連絡の徹底をする。</p>	<p>アンケート結果等で前年を上回る。</p>	<p>(評価指標による達成度) 学校行事への参加は概ね良好であった。 (活動計画の実施状況) 担任の指導等により昨年よりできていた。</p>	<p>(達成度) B (所見) 概ね良好。より一層の積極的参加が望まれる。</p>	<p>例年通りの行事の開催ができ、生徒会を中心に内容もブラッシュアップされ、生徒も楽しんで参加できていた。</p>	<p>今後はより一層の生徒会主導の学校行事運営をしたい。その結果、一般生徒の積極的参加につながることが望ましいと考える。</p>
4	<p>保健安全に関する指導・情報提供を行う。 (保健厚生課)</p>	<p>生涯を通して、健康で活力がある生活を送るために、健康の保持増進に関する指導の充実を図る。</p>	<p>定期健康診断や保健だよりの発行等により健康に関する情報提供を行う。</p>	<p>①定期健康診断受診率 100% ②保健だよりの発行 (月1回)</p>	<p>(評価指標による達成度) ①-1 定期健康診断受診率 99% ①-2 保健だよりの発行 100% (活動計画の実施状況) ①-1 未受診者に対して学校医・歯科医の協力により、受診率 99%にすることができた。 ①-2 保健だよりを月1回発行した。</p>	<p>(達成度) B (所見) 長期欠席等により、全員が受診することができなかったものもあった。</p>	<p>①-1 学校医・学校歯科医の協力により、定期健康診断を実施し、必要に応じて受診指導することができた。 ①-2 感染症対策やメンタルヘルス、健康診断や修学旅行等、適宜を捉えた情報提供が行えた。</p>	<p>①-1 定期健康診断の重要性・必要性を伝え、次年度も受診率 100%をめざすとともに、二次検査(精密検査)の受診率の向上を図る。 ①-2 引き続き、各種行事等機会を捉えた情報提供を行う。</p>
5	<p>① 環境整美委員会を中心に、担任や清掃分担の教員の協力のもと、校内美化を徹底する。「清掃で心を磨く科技高生」を実践する。 ② 防災委員、防災クラブの活動をベースに、地域住民と協働し、災害時に命を失わない態度を育成する。 (環境教育課)</p>	<p>① 日々の清掃活動を充実させ、集中して勉学に取り組める環境整美に努める。 ② 地域と共に防災活動を行い、社会の一員として求められている防災マインドを育てる。</p>	<p>① 校内美化週間期間中、環境整美委員会を中心に清掃とゴミの分別を徹底する。併せてロッカー・掲示物の整理整頓等を丁寧に行う。 ② 地域と連携した防災訓練を企画、実行する。</p>	<p>① 日頃の清掃とゴミの分別の徹底、ロッカー・掲示物の整理整頓、校舎内へのグラウンドの土の持ち込みを減らす。 ② 保育所・幼稚園・地域の自治会などの他団体と連携し、200名以上の防災訓練実施を目指す。</p>	<p>(評価指標による達成度) ① 清掃・分別・掲示等の整理整頓は良好であった。 (活動計画の実施状況) ① 環境整美委員会を中心に日常の清掃・ゴミ分別の徹底に取り組んだ。また、体育祭や文化祭でも率先して環境美化の啓発に努めた。</p>	<p>(達成度) B (所見) ① 概ね良好。文化祭等での食べ歩き問題も改善されてきている。</p>	<p>① 『清掃で心を磨く科技高生』のスローガンの下、環境整美委員会を中心に学校全体での取り組みが効果的であった。本年度は共用部分のワックス掛けに重点を置いた。</p>	<p>① 環境整美委員会を中心に担当教員の指導の下、引き続き環境整美を徹底する。アンケートにより清掃状況を把握し環境美化週間に反映させる。</p>
6	<p>生徒が安全で安心して生活できる教育環境を整える。 (生徒課)</p>	<p>教育活動全体を通して、全生徒に「いじめは絶対に許されないこと」との理解を促し、心の通う人間関係を構築する能力の素地を養う。</p>	<p>いじめ・体罰被害アンケートや面談を通して早期発見に努める。</p>	<p>年3回のいじめ・体罰被害アンケート、年2回以上の面談を実施する。</p>	<p>(評価指標による達成度) 予定以上の時間を設けることができた。 (活動計画の実施状況) 各学期末のHR活動の時間に、いじめ・体罰被害アンケート調査を実施した。また、1学期・2学期当初、夏季休業中に面談期間を設け実施した。適宜、アンケートを実施した。いじめZERO委員会が全校集会で啓発活動を行った。</p>	<p>(達成度) B (所見) 早期発見、未然防止に努めることができた。</p>	<p>アンケート調査結果や面談から、生徒からの相談、悩み、情報提供を受けて、組織的に対応し解決の糸口となった。</p>	<p>未然防止のためにも、生徒と教員の信頼関係を高めていきたい。また、「いじめZERO委員会」の活動を活発にし、生徒達自身が、いじめをしない雰囲気をつくれるようにしていきたい。</p>

7	生徒、保護者、教員に対する教育相談活動の充実 (教育相談課)	欠席の増加や表情等、生徒の変化を見逃さず、適切にカウンセリングを行うための学校全体の相談体制を整える。	カウンセリングの広報を行うとともに、スクールカウンセラーや専門機関との連携を図る。	「ほっとだより」を月1回発行する。	(評価指標による達成度) B (活動計画の実施状況) ほぼ毎月発行することができた。	(達成度) B (所見) カウンセリング希望者は例年通り。外部機関との連携希望は少なかった。	連続3日以上欠席生徒の状況を入力する共有フォルダを作成し、情報の共有化を図った。年度前半は活用もあつたが、後半は十分活用ができなかった。	共有フォルダの利用を進めるための広報を行う。また、不登校理由が、コミュニケーションが苦手、専門教科への不適應など、多様化してきている。早めの対応と共に、様々な選択肢の情報提供が必要である。
---	-----------------------------------	---	---	-------------------	---	---	--	--

②専門教育の推進

学校自己評価								
年度目標				年度評価(3月1日現在)				
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標(目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
8	SSH 事業の取組を行うことにより、理数系教育を通して、科学技術人材の育成を図る。 (SSH 推進課)	SSH の取組により、生徒の興味や関心を持たせる。	魅力ある SSH 事業を展開し、理科・数学への興味や関心を向上させる。	「SSH の各種事業に参加して、科学技術に興味・関心が増した」70%以上	(評価指標による達成度) 76.3% (活動計画の実施状況) 大学講演会(三条市立大学)の実施により、生徒の理工学分野への進路意識を醸成した。外部の各種コンテスト・発表会に参加して受賞するなど、事業の展開によって、生徒の興味関心を引き出した。	(達成度) A (所見) 概ね計画通りに実施できた。	理工学分野における生徒の進路意識の向上、課題研究への取組姿勢の向上や、研究に必要な能力向上についてのアプローチとして、SSH 事業の効果が十分に発揮できた。	これまでの取組を継続・発展させるとともに、STEAM 教育等の新たな取組の推進を加速化させていく。
9	工業の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し、社会の変化や産業界の動向に適切に対応し得る人材の育成を目指す。 (情報科学コース) (環境科学コース)	工業教育のそれぞれの特長を生かした教育を推進し、実験・実習や課題研究、インターンシップ等の体験的な教育活動を展開する。	大学と連携した講義やオープンキャンパスへの参加を実施する。 (情報科学コース) (環境科学コース)	年3回以上実施する。	(評価指標による達成度) 大学訪問1校、研究所訪問6カ所、高大連携実験講座(1年)、サイエンスカフェ(2年) (活動計画の実施状況) 概ね予定通り実施できた。	(達成度) A (所見) 概ね計画通り実施できた。	新入生の進学への意識を高めることに役立った。大学生から講義を受けることで将来の研究や大学進学への期待を持たせることができた。先端の技術や研究を知ることで科学への興味関心が高まった。	生徒の進学意識の高揚に効果があることから継続して取り組みたい。新たな大学や研究所訪問を実施できるように次年度の計画を立てたい。
10	(機械コース) (生産システムコース) (電気コース) (情報通信コース) (環境土木コース)		インターンシップを通じて企業との連携を密にし、キャリア教育につなげる。 (機械コース)	2年生の30%以上の生徒に対して、インターンシップを実施する。	(評価指標による達成度) 2年生のインターンシップについては67.7%の生徒に対して実施した。 (活動計画の実施状況) クラス全体の進路に対する意識向上になった。	(達成度) A (所見) 概ね計画通り実施できた。	授業で学んだことが仕事でどのように活かされるのか知る良い機会となった。インターンシップはキャリア教育を推進する上で非常に効果的であった。	来年度もインターンシップを実施し、キャリア教育を推進するうえで、生徒ができるだけ関心を持つことができるよう工夫する。
11			キャリア教育を推進し、インターンシップを通して、地元企業との連携を密にする。 (生産システムコース)	就職希望者(対象:2学年)の45%を対象として、インターンシップを実施する。	(評価指標による達成度) A (活動計画の実施状況) 就職希望者の55%の生徒が2日間のインターンシップに参加することができた。	(達成度) A (所見) 概ね計画通りにできた。	生徒も、就職に向けて、貴重な職業体験ができ、良い機会となった。また、実施企業からもこの体験が県内の企業への就職につながる事が期待できる。	今後も実施できるよう、企業との連携を図り、より充実したものとなるように実施していきたい。
12			インターンシップを通じて企業との連携を密にし、キャリア教育につなげる。 (電気コース)	インターンシップに2年生の20%以上の参加を目指す。	(評価指標による達成度) A (活動計画の実施状況) 54%の生徒がインターンシップに参加し、生徒の進路に対する意識向上になった。	(達成度) A (所見) 企業の協力で実施することができた。	企業での研修は生徒の進路に対する意識向上と専門学習の良い機会となり、将来の進路選択により影響が期待できる。	企業との連携を深め、今後も継続して実施していきたい。

13		インターンシップや企業・大学訪問を通じて企業や大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。 (情報通信コース)	インターンシップに2年生の20%以上の参加を目指す。	(評価指標による達成度) B (活動計画の実施状況) インターンシップ1社と会社見学1社にお世話になった。積極的な参加希望があり、ほぼ100%の参加率だった。	(達成度) B (所見) 大学との連携ができなかった。今後の課題である。	インターンシップでお世話になったSE系、会社訪問でお世話になった生産系、それぞれに生徒は興味・関心を持って取り組めた。将来の進路選択に良い影響が期待できる。 また、各企業との信頼関係もさらに深まった気がする。	昨年の計画をもとに比較的早くから企業と連絡できたおかげで、よい時期に開催できた。 今後も選択肢を広げながら実施していきたい。 生徒のニーズも踏まえながら大学訪問も実現したい。
14		実習・課題研究について、社会人講師の活用やインターンシップを通じて、最新技術の習得や地域との連携を更に充実させる。 (環境土木コース)	就職希望者全員がインターンシップに参加できるようにする。	(評価指標による達成度) A (活動計画の実施状況) 64%の生徒がインターンシップに希望し全員参加できた。クラス全体の進路に対する意識向上になった。	(達成度) A (所見) 企業の協力で実施することができた。	企業での研修は生徒の進路に対する意識向上と専門学習の良い機会となり、生徒にも好評であった。	今後も継続して実施していきたい。
15	専門的な知識・技能を身につける教育活動を展開し、各種資格や検定の合格者または合格率の増加を図る。	有益な資格を取得させ、検定の合格を目指す。 (建築コース)	有益な資格取得を目指し、生徒1人あたり3つ以上の資格を取得する。	(評価指標による達成度) A (活動計画の実施状況) 2級建築施工管理技士補受験者全員合格	(達成度) A (所見) 高い目標をもって取り組むことができた。	資格取得をとおして、資格の大切さを知るとともに、生徒の進路意識の向上につながった。将来を見据えて資格試験に取り組むことができた。	今後も継続して実施していきたい。
16		実習・課題研究を充実させ、コース展や各種コンペに参加し、地域との連携等、対外的な活動を更に充実させる。 (総合デザインコース)	課題研究の作品を各種コンペに出品し、入賞10以上を目指す。	(評価指標による達成度) A (活動計画の実施状況) コース展を実施し、各種コンペに応募した。地場産業である木工関係の企業と連携した。	(達成度) A (所見) 各種コンペに多数入賞した。木工関係の企業と連携した。	実習や課題研究で製作した木工作品がきっかけとなり、県内でグローバルに活躍している木材加工会社と連携した。今後とも対外的な活動を充実させていきたい。	各種コンペには今後も積極的に参加していきたい。また、企業との連携を通じて、デザイン力や技術力の充実を図っていきたい。
17	専門性の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し、社会の変化や産業界の動向等に適切に対応できる人材の育成を目指す。 (海洋科学コース) (海洋総合コース)	専門的な知識・技能を身につける教育活動を展開し、各種資格や検定の合格者または合格率の増加を図る。	専門分野への理解と学習意欲向上のため資格取得を奨励し、有益な資格や検定等の合格を目指す。	(評価指標による達成度) B (活動計画の実施状況) 漁業技術検定における実技試験(漁具製作)の合格率90%	(達成度) B (所見) 繰り返し反復して練習に取り組むことで技術を習得することができた。	放課後に練習場所や道具を提供することで、自主的に技術の習得に取り組む生徒も見られた。今後も継続して実施していきたい。	実技のみの合格率は90%であったが、筆記試験の結果も合わせた総合の合格率は69%であったので、筆記試験の対策を充実していきたい。

③キャリア教育の充実

学校自己評価								
年度目標				年度評価(3月1日現在)				
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標(目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
18	生徒の希望に添った進路指導と進路達成に向けて学習指導の充実を図る。 (進学課)	生徒一人一人の希望や適性に対応した進路指導を展開するとともに、進路ガイダンスや講演会等を通して、キャリア教育の充実を図り、社会人として自立できる資質や自ら進路を決定できる能力を養う。	幅広い情報の収集を図り、進路情報の提供に努める。進路講演会等とおして、キャリア教育の充実を図る。	適性・希望に対応した進路指導に対する満足度 80%以上	(評価指標による達成度) B (活動計画の実施状況) 生徒の進路ガイダンスへの参加や教員による大学訪問や説明会への参加を通じて、多くの情報を得ることができ、生徒の進路選択の幅を広げることができた。	(達成度) B (所見) 生徒、保護者、教員に進学に対する情報等を提示することで、進路実現に向けて計画的に取り組めるようさらに改善を目指したい。	講演会や進学説明会等への参加を通して、生徒が自分の将来の生き方や進路について考える機会となった。	今年度と同様の結果を残すことができるように計画を立てて取り組む必要がある。キャリア・パスポートの活用や課外活動等を通じ、年間を通して、生徒たちが自己理解を深める機会を設ける。
19	個々の希望と適性に合った進路指導を行う。 (就職課)	進路への興味・関心を喚起し、将来を見据えた望ましい職業観と勤労観を養う。	幅広い情報の収集を図り、進路情報の提供に努める。進路講演会等とおして、キャリア教育の充実を図る。	適性・希望に対応した進路指導に対する満足度 80%以上	(評価指標による達成度) A (活動計画の実施状況) 就職室前掲示板の改善に取り組むことができた。	(達成度) B (所見) 保護者に対しての本校の進路指導の情報提供等の改善を行う。	講演会をとおして、生徒自ら進路について考えるきっかけとなった。	アンケート結果より生徒・保護者の満足度が昨年度よりは高くなった。より一層保護者への進路情報の充実を図る。
20	社会的・職業的自立に必要な能力を身につけ、社会の変化に対応でき、地域社会や産業界に貢献し得る人材を育成する。 (教育情報課)	読書の奨励を図り、基礎学力の向上と生涯にわたり学び続ける能力を育てる。	図書館の積極的な活用を図り、読書の奨励を行う。	図書貸出数が月間 300 冊以上を目指す。	(評価指標による達成度) 平均月間貸出数 210 冊 (活動計画の実施状況) 図書館オリエンテーション(1 学年)、図書館だより発行(10 回)、コース別推薦図書リスト作成(4 種)、図書展示・読書推進イベント、県立図書館との連携、読書感想文課題の実施、各種コンクール応募案内、図書委員会活動:推薦図書 POP 作成(2 回)、文化祭展示	(達成度) B (所見) 授業等での図書館利用により、生徒は改めて図書館の使い方や、図書資料の存在を知ることができる。教諭との連携は重要である。	国語科・総合デザインコースとの連携により、貸出冊数の増加とともに、来館利用数の増加がみられた。また、図書館内外の家具や掲示板の配置や案内方法の変更し、より利用しやすい環境を整えた。	図書館が癒やしの場所であったり、語彙を増やすための読書の場であったり、分からないことを調べる場所としての役割を担う必要がある。「図書館だより」等の広報活動に力をいれなければならない。
21	生徒が働くことへの理解を深めるために、家庭・地域・企業との連携と周知を図る。 (総務課)	生徒の職業観・勤労観確立を目指すために、PTA 活動への積極的な参画を進め、保護者と教員がより頻繁に意見を交換する機会の充実に努める。	保護者・教員が協力して学校運営を支援する関わりを通して生徒の進路実現を図る。	① コロナ禍で実施できなかった P T A 総会を開催する。 ② 体育祭・文化祭関係の四役会への参加率 90%以上 ③ P T A との連絡・調査・アンケートに Classi を活用することで、PTA 活動の情報共有を図る。	(評価指標による達成度) PTA 四役の参加率は 80% (活動計画の実施状況) Classi を活用することで、情報を共有することができた。	(達成度) B (所見) PTA 活動は、ほぼコロナ前に戻ることができた。保護者の Classi の利用も慣れてきている。	PTA 活動をとおして、生徒・保護者・教員相互の連携をスムーズに行うことでより良い学校生活のサポートを行うことができた。	PTA 活動の説明をより丁寧に行い、PTA 四役会での協議内容をより生徒のためという視点で、生徒・保護者・教員相互の連携を図れるよう PTA 四役会で協議できるようしていきたい。
22	中学生、その保護者、中学校教員への学校広報を図る。 (企画広報課)	本校の教育内容・教育活動についての広報を積極的に実施する。	中学校訪問では、本校の教育内容・教育活動の概要について説明し、オープンスクール、ホームページでより詳しい内容を発信することで、中学生に理解を深めてもらう。	① 中学校を訪問して進路説明会を行う。(25 校以上) ② 学校ホームページの更新回数を月 15 回以上とする。	(評価指標による達成度) A (活動計画の実施状況) ① 中学校説明会は、25 校から依頼があった。 ② ホームページ更新回数の月平均は 23.5 回であった。	(達成度) A (所見) ホームページの更新数は、昨年度の 1.5 倍	ホームページを定期的に更新することで、1 日の平均アクセスは約 1 万件となった。	ホームページの情報提供内容が偏っているため、幅広く広報する。